

六ヨ	同 所長	六ヒ	卒業證書寫
六タ	蠶絲學校	六モ	採否如何ニヤ返電待ツ
六レ	同 長	六セ	採用サル、見込ナリ
六ッ	蠶業學校	六ス	採用方決定ス赴任セシ
六ネ	同 長	七一	出張相成ル様取計ラレ
六ナ	蠶絲同業組合	七ロ	至急返報アレ
六ラ	同 中央會	七ホ	推薦願ヒタシ
六ム	蠶種同業組合	七ヘ	推薦イタシタシ
六ウ	蠶種株式會社	七ト	既ニ推薦セリ
六キ	商工省	七チ	相違アリ
六ノ	商業學校	七リ	相違ナシ
六ガ	小學校	七ヌ	添附アレ
六ク	商 會	七ル	出發ス
六ヤ	社團法人	七ヲ	承諾スル
六マ	製絲株式會社	七ワ	承諾スルナラバ履歴書
六ケ	就 職	七カ	直グ送レ
六フ	就 任	七ヨ	支部長
六コ	卒業生	七ヨ	死去セラル
六エ	製絲科	八イ	T 臺 灣
六テ	蠶絲學雜誌	八ロ	鳥取縣
六ア	贊助員	八ホ	德島縣
六サ	製絲紡績	八ヘ	栃木縣
六キ	製絲場	八ト	富山縣
六ニ	身体検査書	八チ	東京市
六メ	專任幹事	八リ	東京府
六ミ	詮議中	八ヌ	東京高等蠶絲學校
六シ	出向命令	八ル	同 學校長

八ヲ	東京帝國大學	八フ	上田 肅
八ワ	特許局	八コ	上田 發
八カ	轉 勤	W	
八ヨ	轉 任	九イ	和歌山縣
八タ	只今交渉中	Y	
八レ	取消ス	九ヘ	山形縣
八ン	頼ム明日行ク	九ト	山梨縣
八ツ	都合アリ何時來ルカ知	九チ	山口縣
八ネ	到着セリ	九リ	依田 社
八ナ	到着セズ	九ヌ	養蠶科
八ラ	到着セリヤ	Z	
八ム	取計ラレタシ	九ワ	實業學校
八ウ	甲電ヲ發 ^ス	九カ	實科中等學校
八キ	謹デ哀悼ノ意ヲ表ス	九ヨ	實科女學校
八ク	U 上田市	九タ	人造絹絲
八ヤ	同 市長	九レ	女學校
八マ	上田蠶絲專門學校	九ッ	常任理事
八ケ	同 長	九ツ	常任理事會

各支部通信

山陰支部だより

昨秋は會員のいろ／＼の都合で、支部會も中止したが、本秋は我々の最も畏敬する針塚校長が、この山陰に見えらるゝことになつたので、暑中休暇が過ぎるとその準備

にとりかゝつた。

校長閣下は鳥取市にある高等農業學校主催の全國高等農蠶專門學校長會議に御出席になるので、それが恰も十月十三日菊花の綻び初めた最適の候であるから支部としても『この機會』と言ふ強い意味に於て在鳥同窓生の田中君や上山君と協議し一方山陰支部會員には數回檄を飛ばしてその日の來るのを待ち焦れて居た。

その中僕が二三回鳥取縣廳を訪れると蠶業取締所長の河野技師が『此際東京の本多校長もまた京都の山田校長も見えられる事だから一つ三校會を開いて山陰蠶絲業の爲め大いに啓發しやうではないか?』と話されたので僕も『それは大賛成である』と双手を舉げて同意した。それで發起人として前鳥取縣技師谷岡熊次郎氏(東京出身)現鳥取縣蠶業取締所長技師河野太一郎氏(京都出身)と僕の三名がなつて山陰及近縣の兵庫、岡山、廣嶋、山口の各縣にも印刷物を飛ばした。主催校に在職して居ると云ふ意味で僕が殆んど總務役になつて三校會の事務を執つた。

十月十日(木曜日) 鳥取名物の高農運動會も正午過ぎから一段と觀衆の大群がグラウンドに集まつた頃『ゲサタツタアスゴ三ジ四〇ツク、ハリツカ』と云ふ電報を持つて守衛がやつて來た。越へて翌朝『三ジハンツクハリツカ』と云ふ京都驛から打つた電報を小使が自宅まで

持つて來た。これによると先生は豫定より一日早い様だが愈々今日の午後三時には先生の溫顔が鳥取驛のホームに浮ぶのだと思ふとじつとして居られない。

鳥取驛には山田高農校長、河野技師、同窓生及縣蠶絲關係職員數名に迎えられて針塚先生が二等車から降りて來られた、例の格構で軽く帽子を脱られながら『ヤア御苦勞、有難う』と言つた簡単な挨拶で驛前の自動車で小ぜにや旅館に入つた。

其の晩は僕が夕飯のお相手をし山田高農校長の案内で市内明治館の活動ヴェルタンを觀賞せられた、先生は何んでも映畫がお好きの様で殊に外國物などは大底御覽になつて居る様だ、兎に角三十數時間も乗り續けて來られても別に御疲勞の様に見受けられず『ヨシ行かう』と言ものゝに御快諾なさるところなど?この方面は辭せない様だ。

十月十二日 今日のプログラムは午後四時から六時までは山陰支部會で午後六時から三校會の懇親會がある事になつてゐるが午前中や午後四時までは差支ないと云ふので僕が東道役で針塚先生を東伯郡地方に御案内申上げた。

午前七時二十九分發で一時間許り乗つて上井驛に下車した。同驛には岸田蠶業試驗場長及片倉製絲上井工場長古田の兩氏が迎えてくれた。最初片倉製絲を參觀し後お

隣の蠶業試験場へ行つた、試験場の講堂で先生は請はるゝまゝに疊大の唐紙に数枚御揮毫をし、それから自動車をドライブして倉吉町に至り青木製絲、山陰製絲及び打吹公園を御案内した。

山陰製絲では蠶絲業の元老西谷金藏翁に會つて健康に關したいろいろの話しを聞いた、翁も今晚の三校會には是非出席したいと言つてゐたが、昨夜東京から歸つた許りで忙しいと言ふので中止した。

あまり先生を煩臭い處許り案内しても旅情を損ねるため殊に古田岸田の兩氏の熱心な御厚意で倉吉町から二里程離れた東洋第一ラヂウム温泉で有名な三朝温泉に自動車を通した、時正午、どんなに時間を計つても鳥取まで午後四時に歸る爲には随分忙しい見物である。

三朝温泉 天神川に沿ひ三朝温泉 依山館へ着いて河鹿の鳴く河を眺めながら温泉に浸つた時は十二時半であつた。一浴後土地の名物小唄三朝節を聴きながら紅葉の山を見た時は先生も全くノンビリした様に見受けられた殊に三朝小唄が氣にいつたらしい。

『三朝川には サイショ 河鹿かエ 鳴いて

戀し戀しとヨ 主を呼ぶヨ』

折角の御馳走もユツクリ頂く等間もなく自動車に乗つて上井驛へ着いた時は汽車が來てゐた。

午後四時第三回支部會を鳥取市三階温泉旅館に開く會

するもの左記十一名殊に林君や四方君など會員外の遠來の顔が見えたのは司會者として嬉しかった。(括弧内ハ卒業回数) 順不同

會 員

〔坂口良吉(五) 上山 巖(二) 北本重郎(八) 岸野潤一(五) 居相泰一(六) 前田節男(八) 田中泰二(七) 小野正男(六) 〕

會員外

〔林 新一(兵庫縣) 四方定雄(兵庫縣) 山本奈良三郎(兵庫縣) 〕

同窓會員も校長先生の溫顔に久方振りに接するとそれからそれへといろ／＼の話に花が咲いて盡きなかつた。先生は主として母校の現状及將來など細くお話し下さつた。『我校も教職員の研究や同窓會員の發展で世界的に認められて來たよ……』斯ふ云ふ先生の御苦心はあり／＼とお顔に浮ぶ様だつた。『諸君は「忍」と云ふことを忘れるな』忍の事に就いては殊に僕はピリツト感じた、全く『我慢だ』……『辛抱だ』いろ／＼と自省して見た。恐らく先生を圍んでゐた諸君もそうだつたらうと思ふ。先生は斯ふ云ふことに就いて深い経験を充分持つて居られるのだ。

一同記念の寄せ書をした

暫くして電話が頻りに鳴る『本多校長も、山田校長もお見えになつてゐるから早く御出席を待つてゐる』との事だ。支部會も時間が切迫したが兎に角僕からいろ／＼の協議問題など提出して話した。

一、母校廿五週年記念事業に關する支部と

しての覺悟

二、代議員の選出及提出問題の説明

三、規則の改正その他

代議員は時間の都合上支部長指名に一任し結局北本重郎君に御足勞を願ふことに賛成一致した。

六時二十分三校會場たる炭酸溫泉料亭に校長を案内した。この料亭は新築舞臺付で百四十名收容出來ると云ふので市としては大きい部類だ。會場には東京出身京都出身、の各位が我々を待つてゐてくれた。六時三十分一同着席本多校長を正面に左右に針塚山田の兩校長が着きになつた。谷岡氏が發起人を代表して開會の挨拶を述べ本多校長が三校長を代表して御答辭あり市の美妓の三弦によつて酒宴を賑はせた。殊に名物の安來節は當地の得意であることは諸君も御承知であらう。

「所名物 荷物にならぬ

聞いて お歸り安來節」

九時近くなつて來ると各校出身の同窓生は各々母校の校長をお連れして第二次懇談會へと席を新しくする。我々も潮時を見て自動車三台で大和尾と云ふ此土地での有名な料亭へ陣取つて水入らずの懇談會を開いた。こんどは三校會とは異つて遠慮も氣兼ねない皆んな學校友達で同じ腹から生れたものが親父を眞中に於て騒ぐのである

からそれこそ底抜けだ。校長のデカンショを皮切りに木會節、伊那節といろ／＼と懐しいのが出た。殊に岸野君の假裝した「鱸すくひ」は妓共をアット云はせる位どうに入つたものだ。上山君は大噪ぎで席に坐つてゐることなどなく唄ふのや踊るので部屋中ドタンバタンで襖など蹴飛ばす位だつた。酒豪田中君が胃腸が悪いと云つて飲まなかつたが西の大關北本君などは實際斗酒を辭せない飲み方だ。林君も四方君も十二時〇五分の夜行まで飲んでくれた。校長の割合下戸には驚いた。在學當時行政的手腕のある校長だから結構やると思つてゐたが先生は全くやらないやらないと云つてもさせば飲むが思つたより飲まなかつた。斯んな時は一時間や二時間は夢の様だ。十二時半全く若き學生時代に歸つた我々は校歌をどなつて母校の萬歳を三唱し別れた。

時に午前一時

十月十三日 當日は鳥取商農主催の専門學校長會議が午前九時より開催午後四時迄續いた。この夜先生は鳥取市近郊の濱村溫泉鈴木旅館に御投宿せられた。

十月十四日 豫め先生と打ち合せ殊に米子市方面の同窓生の爲め午前十時半濱村驛發の列車で米子に向つた。

途中田中、上山、前田の諸君が見送り小生は米子まで案内することにした。此の日は山陰地方には珍らしい好天氣で車窓から日本海の風景を眺めた時は又格別だ。中國

山脈中最高峰の大山（伯耆富士）も手に取る様に見える。また岡幡の白鬼で有名な隠岐の嶋も静かな波に油繪の様に浮んで居た。嶋根半嶋の地藏岬の燈台が白く、その下を滑る様に帆船が走つて居る光景には先生も眼をはなさないで時々満足の微笑をたゞえるのであつた。

午后零時十分米子驛に着くと北本、居相の兩君が自動車を用意してくれ最初居相君の米子商蠶學校へハンドルを廻した。商蠶學校は日本製絲會社長坂口平兵衛氏が十五萬圓寄附して出來たもので本春から新校舎で授業を初めて居るが専門學校以上の立派な建築物である。居相君の案内で隅から隅まで見せて頂いた。橋本校長の懇情に依つて針塚先生は講堂で一場の訓辭を生徒になされた。恐らく此學校が初まつて以來の講演だと思ふ。居相君の好意で中食をなし日本製絲會社にドライブした。會社の應接室で社長坂口二郎氏その他支配人に面會した。校長の挨拶の御丁寧なるには誰も驚いた。此會社に働いて居る同窓生は北本君、前田益藏君、岩田君、神津君で一同應接間で時餘を過した。此の日先生は午後五時發伯備線で廣嶋に向ふ豫定だつたが坂口社長以下各位の御厚意に依つて一泊することにし當地名所皆生溫泉松浦旅館に急いだ。皆生溫泉は近年出來た溫泉であるが工業都市の米子を控えてゐる關係でその發展は素晴らしいものだ。今では電車で十五分もかゝれば日本海の波を聴きながら溫泉

にしたることが出来るのである。

一浴して室に歸へると専務取締役坂口二郎氏及坂口若主人の招宴に依つて室は處狭くお馳走が並べられてあつた。招宴に會するもの校長を中心に小生、居相君、坂口良吉君、北本君、前田君、岩田君、神津君の六名が同窓生で流石は米子市の巨豪坂口氏一家に敬意を表せざるを得ない。僕も校長と御同宿する様にと専務から頻りにすゝめられたが、坂口良吉君と居相君とが「僕の家へ泊れッ！」とか「支部長慰勞會だ！」とか云つて無理に電車に乘せてしまつた。坂口君のお馴染やよひとかへ連れ込まれた時は何にがなんだかサツパリわからなかつた。こゝは坂口君等の縄張りであるからその優遇などはいふまでもない。午前一時頃居相君と二人で町を歩いて同君の宅へ歸つた。奥さんは第四番目の愛の結晶をカーブして今夜にも分裂初めやうとしてゐた際どい處である。

校長は午前五時二十分發伯備線經由廣嶋縣鞆町の山陽支部總會に間に合ふ様に出發、僕は五時一と足お先に鳥取へ歸つた丁度校長が十五日午前十一時鞆町にお着きになる頃は僕は高農で第四時間養蠶學の講義をしてゐる頃であつた。

山陰支部も目下會員が十七名で富田君が福山製絲に行かれたがその代り居相君と神津君が最近に來られた。坂口良吉君は坂口社長の甥で目下蠶絲業とは全く別の醬油

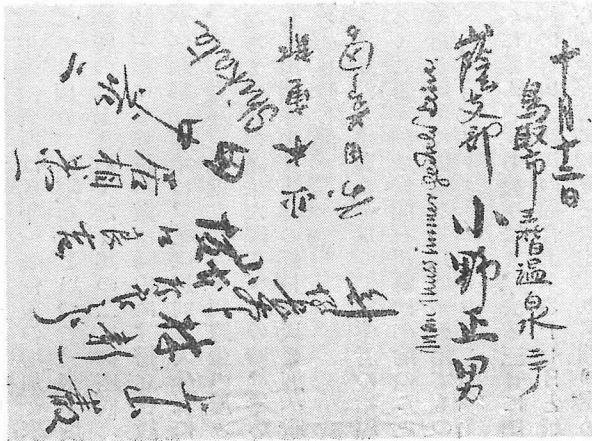
の醸造をやつて日本でも有名な 今醬油は同君の醸造にかゝるものである。北本君は日本製糸の工場主任で君の精神一つによつて生絲の生産を左右し得る重要な位置である前田益

藏君、岩田君
神津君は何れも北本君を援けて元氣よく働いてゐる。

岸野君は嶋根縣に於ける唯一の先輩で大社線の分岐點今市町の支所長をやつて同地方の蠶業行政で手腕を振つてゐる。前

田節男君は因幡に於ける優良蠶種製造家として相當評判を擧げたが現在在家事の都合で止めて、村の爲め盡力してゐるとの話だ。

會員の全部は殆んど海岸線に沿つた近くに就職活動し



てその上各地とも温泉に恵まれてゐるから他の支部より地理的には遙かに優れてゐる。先づ當地方通過の諸君は一度下車して郷土的氣分を味はれんことをお勧めするのである。

擧筆するに當り西谷金藏翁、坂口社長、坂口専務、古田所長、岸田蠶業試験場長その他に御厚意を深く感謝いたします。
(四、一二、一 小野生投)

北 陸 支 部

拜復 向寒の候益々御清榮の段奉慶賀候

北陸支部として特に報告すべき程の事項も無之候共、支部員一同健勝にて、實業界に、子弟の教養に、官界に一意専心努力せられつゝあるは洵に欣快に堪えざる次第に御座候。

北陸支部と謂へば直ちに雪中の國、陰鬱の國を聯想するのみにて、蠶糸業界の事共暖氣にも出でざるやの憾致し候も、今回の會報發刊を好機とし當部内の斯業の狀勢一二の御登載を願ひ、併せて蔭に陽に御鞭撻を庶幾ふの余り贅言を申し上げ度く候

先づ辟頭は機業界にして、北陸の機業界は加賀の百萬石と等しく衆知の事實に候も、近來殊に昨今に於ける經濟界の變動は樂觀を許さざるの時とは雖も、特筆大書の價值あるものと信じ居り候

次に製糸業は地勢、氣象の關係上萎微不振の状態に有之候も、近時片倉製糸が多年北陸の地を凝視し居りたるも之が實現の運となり既に工事に着手せるの有様にて、將來有望なるものと思惟居り候。又縣營の生糸検査所中重きをなせる石川縣生糸検査所は逐年検査件數の増加を來し、目下の建物にては極めて狹隘なるを以つて、來年度豫算に巨額の建築費の計上さるゝなど其の二に御座候。次に養蠶業は北陸三縣にて養蠶戸數は岡山に、掃立枚數は和歌山に、之が產繭額は熊本に、桑園反別は大分縣に伯仲の状態にて、之が發展策に就ては吾々同窓生の屢々協議されし問題なるも、其の議未だ纏らざるの時、幸い之れが先驅者として山梨縣より榮轉の絹村貢氏を迎へ暗夜に光明を得たるの感致し候。

氏は多年の經驗と造詣深き手腕とを以つて當業者の指導督勵の任に當らるゝことゝ相成候間石川縣は勿論のこと兩隣縣へも必ずや近き將來に偉大なる良成績を齎すものと信じ居り候。

尙支部員も二十名に垂んとする盛況にて、去る三日に總會開催の豫定に候處富山縣諸氏の都合上來る十七日と延期致し支部の中心地金澤市に開會と決定仕り候間、定めて當日は學生氣分と相成り深更に至るも快談尙盡きざる活況を呈するものと只管喜び居る次第に御座候。

右報告のみ。

(十一月十日 安嶋)

山陽支部だより

昭和四年十月十五日、わが山陽支部は、圖らずも、針塚校長先生の鳥取高等農業學校主催の全國高等農蠶專門學校長會議に御出席の爲め御西下になつた好機を、特に御願ひ致して、御臨席を得、盛大に第三回總會を開催することが出来た。

何分山陽の地たるや、蠶絲業にかけては比較的幼稚の域に彷徨し居ることゝて、地域廣大なる割に會員數が少くない憾があつた。然し今春來、製絲科第一回卒業の林部源三郎君を廣嶋の帝國人造絹絲株式會社検査部主任として迎へたのはじめとし(絲八)の富田庄三郎君を山陰米子市から福山市山十製絲會社福山工場副場長として、東北帝大出の新進理學士(蠶八)日野光平君を廣嶋縣立女子專門學校に、絹絲紡績科第一回卒業以來母校に在つて後輩の指導に専念せられてゐた(紡一)杉木政義君を廣嶋縣三原町東洋麻絲株式會社三原工場技師に、其他新進としては(絲十五)伊藤敏之君を岡山縣津山市郡是製絲工場に、(紡八)上垣内武彦君を福山市福嶋紡績會社に、(紡八)藤田齋君を岡山縣味野町近江帆布會社工場に迎へて陣容頗に加はり、山陽支部總員は一躍二十四名となつた。去る滿二年前の昭和二年十月、本支部創立の頃は僅々十二三名に過ぎなかつたものが約倍加したのである

から實に欣快至極である。

× × ×

十月十五日、第三回總會の會場は交通の都合から言つても、會員分布の上から言つても、風光明媚の點から見て、どうも廣嶋縣鞆町が最適と言ふことになつた。往昔韓人李某が來朝の砌、この地に立寄り、「日東第一勝」と推勝の地、福禪寺に隣して立つ三階樓「對山館」で開會することになつた。

當日は火曜日とて會員が出席するには何彼と都合よい日ではなかつたけれ共、針塚校長先生久々振りの御來會とて、相會する者十三名、即ち左記の諸君であつた。

藤原卓之君 小林輝一君 小嶋杉門君

小川 保君 小川敬之助君 佐瀬 旭君

小山久一君 富田庄三郎君 上垣内武彦君

杉本政義君 奥村好一君 林部源三郎君

土岡光郎君

此の外中嶋靜太郎君は毎回の出席者であつたが今秋は大病の爲め臥床中であり、米田俊雄君は生徒引率東京方面修學旅行中の爲め、山口縣廳の鹽見君は同君が審査長で桑園品評會當日とて不參、廣嶋女子専門校の日野君は朝鮮に出張中友重君も山陰地方出張中などの爲め若干の不參者のあつたことは止むなきことながら物足らぬ感のするところであつた。

然し相會する者、初對面の人々も相當あつてお互に非常に愉快であつた。

午後二時開會、校長先生の御話を承つて後は、例年通り船遊びと言ふことにした。特別仕立のモーター遊覧船二隻に分乗それに鞆町の美形十名を積み込んで碧紺鏡の様な海面を滑る様に走つて、先づ天下に名高き阿伏見觀音の大雄飛閣に參拜、後かねて用意の御馳走を濱邊の白砂の上に粗筵を敷いて陳列し、頬かむりに夕陽を避けながらここに内海の風光を眺めつつ當地の名釀「阿伏見正宗」の芳醇に酔ふことになつた。何しろ、佐加那は、とり立ての新鮮なものである。一同酔のまはると共に得意の蔭し藝も若干披露があつた。校長先生の山陰直輸入の『米子節』を聞くことが出來て一同歡を盡した。

午後五時半嶋廻りなども終へて再び旅館に立ちかへり、ここで一同再會を期しお互の健康を祈りつゝ解散した。同夜は校長先生には對山館に御一泊、翌日福山市の山十製絲會社工場を小山君、富田君等の案内で御視察の上、御歸校になつた。

山形千曲會だより

一、來訪者

昨三年九月の總會後は、種々の都合に依り會員集合の機を得なかつたが、四月某日農林省の原田兵衛氏來形衆議

一決在形者のみの臨時會合を催す。會するもの森、今井、古山、栗原、小山田、小口（都合上不參）井上、岩瀬の諸氏既に夜更けての會合だが、遠來の原田氏は疲れの色もなく、上々氣嫌にて徹宵、維新の壯士の會合宜しく且つ飲み且つ談ひ解散は文字通り鶏鳴曉を報する頃。

本部より……鎮夏の一日、本部の山口定次郎氏突如御出張の御御來形種々支部への助言、本部の模様等御聞かせ被下誠に有難く、時間の都合上御款待も申し上げず悪しからず。

其後！柿の色漸く目立つ様になつた十月の半、計らずも珍らしくも東北六縣蠶業主任官會議の歸途、青森支部の高須兵司、佐藤良太郎、北海道の寺嶋の三氏來形、日曜日の事とて會員は大方不在、在形者のみの集合、會するもの古山、栗原、岩瀬の三氏のみ午前九時、先づN亭に於て粗末なる歡迎の宴を開く相談笑踊り等時の移るを知らず、午後二時頃官舎古山氏宅を襲撃脱線百出、青森の二氏（寺嶋氏先發）は夕刻上り方面に向つて出發せり。

二、第三回山形千曲會總會

時、昭和四年十月二十七日（日）
場所、天下の名勝 山寺ホテル

（山寺は先年針塚校長御登はんの由緒ある地なり）

人 森、今井、古山、栗原、小口、林、井上、岩瀬、中嶋の諸氏

満山の紅葉夕陽に映えれは正に燃ゆるばかり、東籬の黃菊、白菊、漸く花酣にして余香馥郁、晚秋の情景吾々會員に多大のインスピレーションを與ふものがあつた。會員は思ひ／＼に集合、參會者は全會員の五十六％強、豫定より尠なかりしを遺憾とす。午前十一時開會、森氏座長席に就き開會を宜し、母校二十週年祝賀寄附募集に關する件、役員の改選、會則の變更、代議員の選舉（栗原氏に決定）代議員會提出問題等を附議し、豫定の如く議事進行、午後二時本會の目的を達成せん爲め會員の出席を可良ならしむる方法を種々申し合せ閉會せり。

議事終了後懇親會に移り、席上時事問題等種々談じ、時の移るを知らず、一部會員は楓葉を探ねて山寺に登る。天は高く水は飽迄悠久、中秋の自然、それ玲瓏透徹して清澄の氣自ら襲ひ來る。山下の偉大なる大自然のふところ抱かれて、秋收に奔馳する農作者の忙しき姿を見る時、そこには尊き興國の魂が亂舞し、エンゼラスの鐘の音を聞かずとも、其處には偉人ミレーの畫を想ひ、また農聖ボングレフの超脱せる眞の叫びに深き感興をそゝるのであつた。斯くして中秋の偉大なる自然に抱かれ身も魂も甦生する思ひにて下山、薄暮和氣霽々裡に一同歸路とに就いた。

三、會員勳靜

本會は今春 會員土岐並門田の二氏を北信支部に送り、

現在、始めて十六名、縣廳一名、農事試驗場一名、蠶業試驗場四名、蠶業取締所同支所三名、農學校一名、製糸家二名、製糸會社二名、蠶種製造家一名、自宅實業一名、左に會員の動靜をおしらせ仕様。(乍、潛越蒙御免)

森 干城 氏は縣立農事試驗場置賜分場長として縣南、置賜地方の桑園改良に全力を傾注せられ、夏秋蠶作柄問題其他學術的研究に没頭し、研究論文の發表や近し、地方民の期待や頗る大なり。傍山形千曲會長として會の爲め種々盡力せらる會員一同深謝仕る、一方又好酒家にして逸話多く、就中金屏風一件、同輩原田、古山氏との夜中杉の木匍ひ上りは逸話中の逸話。

今井又藏 氏は縣蠶業取締所寒河江支所長として縣村山地方の蠶業改發の要路に有り、同地方蠶種家の評判や極めて良し。取締支所長としての先輩たり、傍杜鵑花の養成に没頭し遺傳のメンデルズムを應用し、新品種を育成、「阿古那の松」と命名日本全土愛さい家にセンセイションを捲き起し、一芽一〇圓とか、一握巨萬の財産をものせんとす、羨望の的なり、氏は面白い方面で成功したものだとは同窓間の専らの評判。

仙場秀次郎 郷里鶴岡市の自宅に有り種々御多忙の爲めか會に御出席少し爲めに近況に疎し、是非御出席を乞ふ同窓生は氏を期待する事大なり。

古山宗八 山形の桑を思へば古山を思ふ程古山對桑は不

可分にコムバインし、自他共に縣栽桑のオーソリテイとして任じて居る。近頃迄は縣試驗場八町歩余の桑園主任として實際的研究家として盡力し、他方獎勵方面を擔任せられたるも、桑園改良の急務なるを痛感せられてか、月七日附にて縣廳に引上げ縣内務部農務課勤務、栽桑指六導獎勵主任官として活舞台に立たるゝ事になつた。二万六千有余町歩の桑園、改か荒か、誓つて氏の双肩に有り、氏の棟腕振り縣民は等しく期待す、好きなジャパニーズ・サケも幾分減量せらるゝか？ 酒屋の收入減より來る酒稅の滞納を恐る。

山本 薰 片倉王國兩羽製糸場の現業長、才智に長けたる氏の活動振り躍如として浮ぶ、工場信用厚く行政官として無くてはならぬ人、快活にして談笑風發の慨あるは内外共にもてる因か。

近藤正己 氏は、縣北庄内の平野縣立農學校の教壇に有り近年愈勃興の機運に向ひつゝある同地蠶業の開發に盡力せらる、第二國民に蠶業思想を注入し、庄内一大蠶業王國を目論んで居る、願はくは蒼海の變なからん様御手加減を願ふ。

栗原 章 氏は先年農林省蠶業試驗場福嶋出張所より縣試驗場に榮轉研究的頭腦と鋭敏なる着眼力に依り、着任早々、蠶種の人工孵化の研究蠶卵比重の研究、太陽燈、電燈照明其他學術的研究より、實際的研究に没頭し近頃

は夏秋蠶試驗部を分擔し、夏秋蠶不作問題を徹底的に研究すべく葉質關係、氣流關係、品質關係、溫濕度關係等々盛り澤山の設計だ。何れでもがうまく行つたら大したもの自重を望む。

小山田啓三氏は縣試驗場に在勤、行詰まれる蠶糸業の打開は學理實驗に基調せる科學的經營と、少費多獲の實を握る可き經濟的經營法の二にありとなし、氏は専ら後者を探究すべく經濟育を研究、氏考案の山蠶式條桑育、小室育の評判や極めて良し、粹な新調洋服、ソフトカラー、蝶ネクタイ姿でWや第二世の待つ横町スキートホームの歸路がちらつく。

武田豊太郎氏は自家にて優良蠶種の製造に努力せらる強健と病歩0.00%セリブレン最高點請合の蠶種を目標として努力して居る、一方地方青年を指導啓發すべく在郷軍人分會長、或は青訓指導員として寧日なし、將來縣政を背負ふ可き責を有す。好漢幸に自重せられん事を。

小口一枝氏は縣蠶業取締所勤務内外共に評判や極めて良し。大日本蠶糸會蠶糸の光の編輯主任、毎月遠筆を紙上に披見す、近時同誌の讀者倍加せるは全く氏の獻身的努力に依る、他方卓球の選手として鮮かなるプレーヤーはヤングファンを恍惚たらしむ。

林十郎氏は郷里にあつて松岡養蠶場製糸部の現業長としてセリブレン滿點、グラントエキストラを目標とし

て奮闘せられて居る。

多勢龜二製糸家たる氏は郷里宮内町に於て購繭に、外交に東奔西走、驕らざる君は何時も木綿姿にて市内に披見す、縣南置賜財界の大立物も斯うした風彩は却つて好結果を及ぼし、多勢様と云へば地方民は低頭、益々自重以て蠶糸業の爲めに御貢獻を望む。

井上兵一郎縣蠶業試驗場栽桑部に在勤、専ら縣栽桑指導獎勵方面を分擔桑苗の配布、農家經濟を圓滑ならしめんが爲め栽桑家の副生産を増加せしむ可く桑條利用製紙法研究に没頭中完成や近し、又近い中に本廳引上げとか聞く？昨年一人のオトツチャンと相成り申候は芽出度し

多勢義三氏は漆山の實家にあつて製糸場を經營せらる從弟たる龜二氏と共に縣南財界の巨頭、祖先傳來の質素を旨とせる家訓に基き、意氣なれ共印判纏姿にも所々に披見せるは心強し、養蠶家との提携を熱望して己まぬ。

岩瀬三郎熱の人岩瀬君は蠶業試驗場桑園の研究事項を背負つて居るの觀がある、近く農林省より特別の補助を貰つて東北で唯一つ否全國に類のない桑の品種試験の創設設計は氏の努力に依り完成せられ、將來の成績に對して縣民の期待甚大……何處迄も其熱をさまさぬ様。

中嶋幸三氏は天下の名湯赤湯溫泉縣蠶業取締所赤湯支所に在勤、置賜の蠶種家を潤歩、近年同地方の頃に病歩の低下せるは蓋し氏の奮勵に依る處多きか、烏帽子山を

背景とし美形連をよそに弓道にいそしむとは羨し。

一九二八、一一、二五(山形千曲會報)

山 梨 支 部

山梨縣とか甲州とか、一口に他國者は云ふけれども土地の人ははつきり郡内と、國中との二つに分けて意識して居る。

昔から、地勢の關係からでもあらうが、住み慣れて見ると、二つの人間の性質から骨格迄、違ふ様に思はれる。奇怪に聞えるのは、郡内の人が、甲府を中心とする盆地國中の人を呼んで甲州人と云ひ、國中でも、何によらず郡内ものと。他國扱ひにする事である。こんな工合で、支部員の會合も、せまい所で少人數の割合に、速急な勢揃へにはお互に中々臆却である。

過般、縣農會技師に吉川誠彦君を迎へ、矢嶋製糸場に竹内君を得て、仲間も段々増へて行くと思はれたのに、絹村貢君を蠶糸課から、天野武良君を蠶業學校から失つて終つた。

其他平塚兵次君は玉井製糸場を退かれて、目下甲府市穴山町に養繭機の革命に向つて著々成功を収めつゝあるし蠶業試験場の笹本保雄君は郷里鹽山に蠶種製造を自營中である。故參株の向井政彌君を初め、繭檢定所の末永白二君、郡内吉田の齋谷正男君など、皆大元氣で働いて居

る。殊に矢嶋組の荻原國雄君は、最近才色兼備を迎へられ英氣百倍勇往邁進である。(鈴木生)

福 島 支 部

一、役員の変更(十一月十日決定)

支部長 田附卯一郎 代議員 同人
幹 事 大名昇 富澤政治 弓田弘 岸田繁雄 万石
安太郎 蒲生勇一 安倍恒雄 笠原重龜 横

山英一 望月榮作

二、母校二十周年紀念事業の件

(イ)蠶種家及製糸家より募集す可き寄附金額壹千萬圓内外を標準とし極力勧誘する事。

(ロ)會員の特別寄附、現在會員二十六名に對し一名平均三口(十五圓)とし計七十八口以上を負担する事

(ハ)募集區域及分担者、當支部區内をセツに區分し各區域内に於ける最寄り在住會員をして募集に當らしむ。

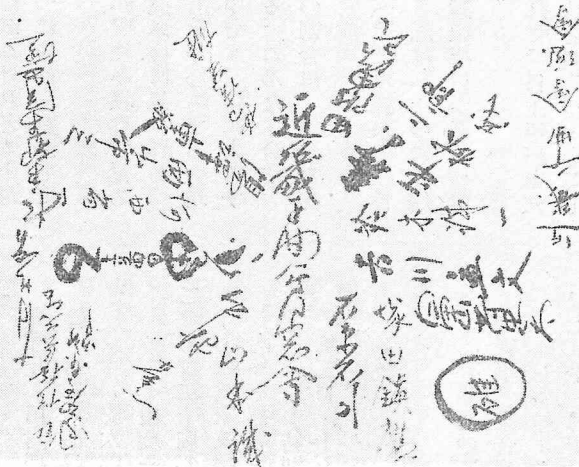
(ニ)募集費の支給、募集の爲、要したる費用中、汽車電車、乗合自動車等の三等賃金實費を募集額より控除し支給する事。

以上は十一月十日開催の總會に於て決定せるものなり。

近 畿 支 部

大正十五年秋創立以來近畿千曲會は早くも既に五ヶ年の

星霜を閱するに至つた。其の間歳々年々人相同じからずで、若干の會員の移動は免れなかつたとは云へ、我等の同窓會をしてより完備充實せるものにする爲に、より進歩的發展的傾向を多分に有するものにする爲に。より全同窓生の生活に即した有機的なそしてパワーフルなるものにする爲に。より生氣の躍動する活氣充溢のものにする爲に。不斷の努力を續け一路その實現に邁進して來た事には全く變りはない……さればこそ、吾々近畿千曲會員は此のエコロジカルコムプレックスな世に處して徒らに保守退嬰的な無氣力に陥る事を相互に警め合つて來たのだ。そうして此の目まぐるしい學術界、經濟界等々の進展に對して全同窓各位に向つても亦歩調を一にして之に遅れざる可く、否斷然リードす可く邁進せられん事を希つて止まないものである此の表はれの一端としてあの第三回代議員會の數々の提案となつたのだ。我々の提案には容れられたものも



あり、容れられなかつたものもある。然し我々の精神我々の持つ考そのものは必ずや代議員諸氏を通じて同窓各位に知られた事と思ふものである。

吾々の希ふ母校の内容的充實。同窓會の量的質的發展。そして同窓各位の心的物的の幸福、それ等は何れも同窓各人が歩調を一にして、ハンドインハンドに一路その目的に向つて邁進するにある。さればこそ吾々再び茲に聲を大にして「同窓意識の再生」を絶叫し「共存觀念の再現」を強調するのである。

X X X

近畿千曲會は定期の役員會や總會の外に大學に在籍する者や京都在住の人々を中心として集會することが甚だ多い。集つて何をするか？ お定まりの會員相互の親睦は勿論の事集つて、會つてそして大いに談ずの議論なのだ。そして生物學、經濟學、化學、蠶絲業一般、社會學等々、各々其の専門の蘊蓄を吐露して知識の交換をし、各人の所謂水準高き常識の涵養を計つてゐる。そして更にまた、

各人の私生活私的行動に迄進んで直言諫行以て所謂ノールな人格的洗練を加へんと試みつゝある。此の如くして近畿千曲會の同窓は溢るゝ友情の雰圍氣の中に愉快に同窓會の進展を企劃し、各人の知徳の磨勵を續けてゐるのである。

× × ×

近畿千曲會の行事については既に前號に吉川氏から詳細に報告せられたから茲には省略する事にする。また各會員の動靜については最近發行の近畿千曲會報に詳細記載せられてゐるから各支部及本部に送付してあるそれについて觀て戴き度いと思ふ。

今當支部所屬會員を分析して見ると次の通りである。

(總員六六名)

科別 養蠶科 一五名 製絲科 三〇名

絹紡科 二一名

府縣別 京都府 三一名

奈良縣 三一名

大阪府 一四一名

職業別 會社員 四二名

教員 二名

在自宅 七名

次に昨秋十月二十七日定期總會の結果選任された現在の役員を記せば次の如くである。

會長 幹事 庶務

會計 編輯

各地區 京都市

綾部

山科

伏見

滋賀

奈良

和歌山

大阪

河

西

向

尙近畿千曲會事務所は「京都市左京區田中大久保町六五、吉川方」である。

× × ×

スピードと急テムボの時代。學術は！社會情勢は！凄しい推移と進展とを續けてゐる。吾々は吾々の社會に其の一構成分子として生存する限り此の進展に此の推移に遅れてはならぬ。そして吾々は日頃大多數の場合に

石原石司

吉川孟文

内川勇

湯澤重敬

中澤重

橋詰英雄

永會豐吉

塚田鎮磨

鈴木誠一

湯澤重敬

巢山喜吉

石原石司

田附由次郎

森本爲之助

小坂田亮

河西向一

於て一細胞としての存在よりも一組織としての存在の方が其の機能上格段の差を以て有力なのを観る。茲に於て吾々は獨り近畿千曲會のみならず、オール上専同窓會の完備せる組織の結成と其の發展と全組織を通じての強盛なるバイタリテの存在を、發生を望んで止まないものである。

終りに臨み近畿千曲會を組織する各細胞分子は何れも健全にそして確かりした足どりで各々の本務に邁進しつつある事を各位に報告するの光榮を有するものである。(文責在筆者)

昭和五年如月 洛東神陵臺上の寓居にて 内川勇記

四 國 支 部

此支部が生れて以來一度だつて本部へ情報さへしないで誠に相濟まなれないと思ひながら、早三年を経て居るのであるから實に驚入る。そこで此度こそは三年分を一度に御報して義理をはたそうと謂ふ虫のよい考へを起した次第です。

確か昭和二年の晩秋何かの會合で朝長勝治氏から四國支部發企の計畫を話されて大に賛意を表して感謝したのであつた。勿論大正十年頃から香川縣を除く徳嶋、高知、愛媛の三縣には若干の同窓生も居たのであるが、それ等の發議もなく終つてゐた。四國と謂へば掌に入る程のち

つぽけな小嶋の様に見へるが、あれで仲々廣く、しかも縦横に峯巒起伏、壑谷連亘と謂つた有様で、至つて交通の便悪く隣縣に行くよりも寧ろ船で神戸、大阪に渡る方が樂な位である——尤も現在では沿海に優秀な汽船便があり、省線四國鐵道も大分延長し陸には自動車便が四通發達して余程よくはなつたが——こんな理でまだ數の少い同窓生の會合する機會等全くなく、四國各地の同窓全く孤立した有様で、自然母校又は本部との交渉少くまづ繼子扱ひにされた形——そう謂へばお叱りを受けるかも知れぬが、兎に角お互に連絡を取つて行き度いと念じながら、それが出来なかつた次第である。其後追々と同窓生も増加して二十余名になり、是非共支部を組織したい少くとも一年に一回位は一堂に會し懷舊談に耽る程度の軽い意味の會合でもよいと願望してゐた際、此議が起つたのであるから早天に慈雨を恵まれた次第で、愛媛縣廳の井上克巳氏から四國在住同窓に飛檄したところ、たちまち總ての同窓から賛成激勵の通知又は電報に接し、普は急げと昭和二年もおしつまつた極月、伊豫道後溫泉岩屋に設立總會を開いたのである。會するもの朝長(蠶二)江頭(蠶五)、井上(蠶六)、宮崎(蠶八)、丹生谷(糸八)、大政(蠶二)の六名で直ちに支部部則其他を決議して大に痛飲論談した。當時支部員は徳嶋六名、高知四名、愛媛十一であつた。

次は昭和四年四月の初め櫻花亂舞する道後公園望月樓に第二回總會を開いた。會するもの第一回出席者の他に新しく愛媛に赴任せられた花岡（蠶一）、岩本（蠶一）、岸（糸二）、福嶋（糸二）、の諸兄も加はつて十名、數こそ多いとは言ひ難いが、何と謂つても大半が大先輩と來てゐるから、空氣一新眞に總會らしい總會であつたことは勿論である。母校或ひは同窓會の問題、來る二十周年記念事業のこと等に就いて相當つき込んだ所まで眞剣に論議された。會後地元の縣の蠶糸課長太田直氏をも招待して、頃は彌生の半ばであり、酒色南海の粹と來、友あり久方振に遠方より來り會す又樂と謂つた有様で大に交誼を厚くしたものである。

たゞ返す／＼も殘念であつたのは此會に母校又は本部から誰かの臨席を願つてゐたのであるが終に其榮を得なかつたこと、香川、徳嶋、高知の部員からの出席を得なかつたことである。吾々母校から相當遠距離の地にゐる同窓にとつては、機會ある毎に母校を訪れたい、少くとも一二年に一度位は訪問したいと常に願望してゐるのであるが、さて仲々實行が出来ない。一部にはそうする機會のある同窓も居るが大部分の者は到底不可能の立場にあるものが多い。そこで願はくば母校又は本部の方から同窓の相當居る地方へは、たとへ遠距離でも時々出かけて戴いて鞭撻もし、母校や他の時事の話もして戴きたいの

である。此事は母校にとつても種々事情があり、又吾々の方にも其の機會を造らないためであらふ。又、母校の方でも相當考慮せられながら實行出来なかつたのであらふが、吾々の願望としては地方より作る機會以外にも母校の方でも多少の犠牲を拂つても發動的に地方に來る機會を與へて戴き度いことである。これは前言つた意味の外にも重要な價値のあることではあるまいか。これは恐らく母校より遠距離に就職してゐる同窓の總てが吾々と同じ感を持つてゐることと信ずる。過日早川教授が突然松山に來られ數名の者會合一夜懇談の機を得たことは此意味に於て非常に有難かつた。

先般本部から支部通信をせよとの御命令には「ユーモア」味にとのことであつた。どうもこんな事を餘り繰り返せば叱られるかも知れない。このあたりで方向を轉換するとしてそこで當支部幹部級の最近の動靜でも走書して御免を罷ることにせよう。

○岩本市郎氏。自縣の農學校に昨年四月松江から歸られた理である、伊豫蠶業の中心南豫の御出身、夜を徹して痛飲論談自若たる點將來議政壇上の人を思はされま

す。
○波多野千里氏。伊豫の南端太平洋に面した別天地の學校の教頭さんになられてもう十年になります。多藝多能圓滿なる吾等の支部長です。近頃大海に釣を垂れて

大物を獲ること悟道に入られた由、山國の各位お訪ねあれビチ／＼した銀鱗の生魚の手料理に舌を驚かされること受合です。

○花岡作彌氏。同じ南豫の東宇和農學校に來られた。地方人士より先生にはおしい名教頭との折紙がついてゐます、いづれ行政畑に移植せらるべき人材と皆謂つてゐます。御大典には生徒を引具して町を練り歩き氣の小さい田舎人を驚嘆さしたと言ふこと。

○菅澤隆三氏。徳嶋縣の蠶業獎勵に精進され乾繭組合の創設に熱心されてゐた。近頃趣味の書畫骨董に冬の夜長に忙中閑を得て雅居してゐられることもありませう。

○大町省三氏。自縣の蠶業試驗場の主任として自重されてゐる。毀譽褒貶を視野の外にして眞に郷土、土佐蠶業の革發に寧日ありません。山岳疊重大海に面する地室戸崎の壯景となる男性美の土佐は又縣内交通至便とは申されぬ、其土佐を訪れた人は或時は山深く草鞋脚絆に身をかためて老爺を指導する氏を見出すでせう。かの濱口首相を生んだ土佐は、其の蠶業の將來に氏の如き人士を要求するの時近いのではありますまいか。

○宮坂正彦氏。徳嶋の農學校に阿波農村青年の育英に努められてゐます。菅澤隆三氏の御宅と極く近所で、共

に卓を圍んで痛飲談論夜を徹すること屢々と聞いてゐます。

○朝長勝治氏。實業界蠶種製造技術者の全國的權威であることは先刻御承知のこと、愛媛の東豫四郡の郡是とも謂へる東豫蠶種會社の技師長です。どんな活動をしてゐるか、他の大小蠶種家が營業不振に泣く昨今此蠶種會社のみは蠶種が毎年毎期大不足、おしかける顧客にお斷りを言ふ事、それが此會社の經營上最も難事とする當面の問題の由、他はおして想像が出來ます。四國支部の發頭人、たゞ心配はいつも宴酣なる時陶然夢中の人となつて舟をこぐ、あれは罪造る素因になりますまいか。

○岸益吉氏。愛媛南豫乾繭組合の技師として乾繭事業を一手に引受けて活動してゐます。單身赴任せられてゐるようですが、その乾繭組合のある宇和嶋市は御承知の闘牛の本場、おのづから男女いづれも、總ての意味にサツバツと聞いてゐますお怪我のないやう祈ります。

まづ此邊で御免を願つて次回には若い新進所の活躍振りを御報することゝして擲筆します。(一一、一八宮崎報)

福島支部

最近の概況を御知らせする、昭和四年十一月十日支部總

會を開催し熱心なる出席會員に依て左記の件を決定した會議に提出した事項は役員の改選、代議員會提出問題、母校二十週年記念事業の件等であるが、主として記念事業の件に就て熟議を遂げたのである。其の概要を申し述べよう。

イ、一般寄附

蠶種家及び製絲家等から御願ひする寄附額は壹千圓と目標を定めた、蠶種家の蠶種製造枚數一萬枚に付拾圓、製絲家の糸數百釜に付拾圓乃至貳拾圓とする、尙此の外經營狀態を想像して適當に増減すること勿論である。寄附を御願ひする場合に、卒業生の在勤する所は非常に話が樂であり且好意を示されるので募集の苦心も忘れる、早く全國に卒業生を普及配置したいものである。

ロ、會員の特別寄附

同窓會員の特別寄附の標準を次の様に定めた。

養蠶、製絲科卒業第一回より第六回まで

六口以上

同 第七回より第十一回まで及紡績科卒業第一回より

第三回まで

四——五口

同 十二回より十六回まで及紡績科四回より八回まで

一——三口

右の様に三段に分けたが卒業年次の古い者ほど口數を多

くするを原則とした、總會出席會員十三名で忽ち五十八口を確定するの盛況である。今年卒業の新會員で皆二口以上の申込である。出席會員平均一人の申込は四・五口となる。當支部では全部員平均三口以上を負擔する事に決定した。

ハ、勸誘區域と分擔

當支部區内を七つに區分し、各區域内に於ける現住會員が寄附勸誘に當る。尙他の區域でも縁故關係等で協力すること勿論である。

ニ、總會の概況

前記の様に十一月十日東北の名湯飯坂溫泉佐藤屋に會するもの次の十三名で全會員の丁度半數である。

相馬郡原町在住 富澤正治君、蒲生勇一君
會津若松市在住 大越 信君

郡山市在住 望月榮作君、和田益己君

岩瀬郡須賀川町在住 弓田 弘君

伊達郡在住 横山英一君、池田篤治君

福島市在住 渡邊幸雄君、西本朝平君、万石安太

郎君、岸田繁雄君田附卯一郎君

右總會には態々本部から林教授の御來臨を仰ぎ記念事業に就ては詳細なる御説明があつたので、會員も微力ながらも記念事業に盡し寄附に關する件なども容易く決定を見たのである。終に支部會員の統計表を掲げて報告終